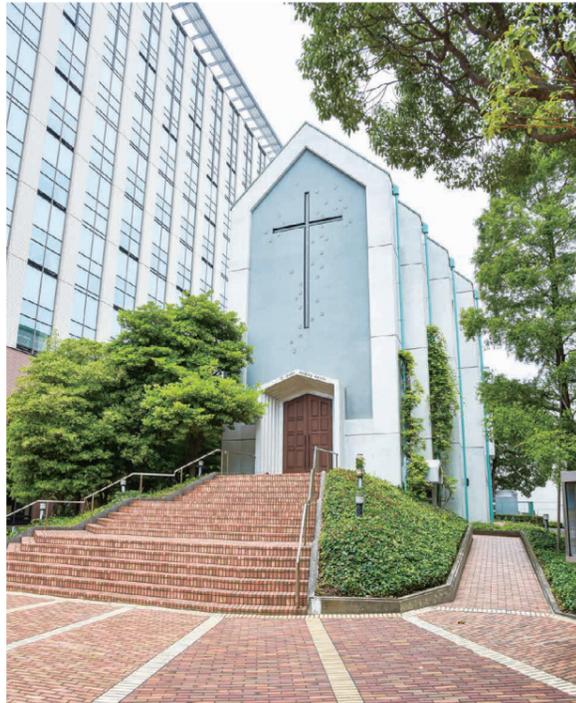


スポーツもカルチャーも、みんなでつくる。

# ALL KGU



## 人になれ 奉仕せよ

関東学院大学の校訓「人になれ 奉仕せよ」。

これは、関東学院の初代院長 坂田祐が第1期生の入学式で述べた言葉です。

キリスト教の精神に基づき、生涯をかけて教養を培う人間形成に努め、人のため、社会のため、人類のために尽くすことを通して己の人格を磨く、というこの関東学院の教育方針は、長年にわたって継承されてきました。さらに、坂田は後年、この校訓に「その土台はイエス・キリスト也」という言葉を書き添えています。

関東学院大学は、国際化が進展し否応なく共生が標榜される

現代の社会において、研究・教育機関としての真理探究に加え、キリスト教の精神に基づき、多様性と多元性を寛容と協調の心によって

包み込み一致を志す人材の育成を

今後も継続し、なお一層の進展をはかります。

## HISTORY

- 1884 横浜山手に横浜バプテスト神学校創立  
初代校長はA.A.ベンネット
- 1919 横浜市南区三春台に私立中学関東学院設立  
初代院長は坂田祐
- 1949 金沢八景キャンパスに関東学院大学設置  
経済学部設置、工学部設置
- 1968 文学部設置
- 1986 金沢文庫キャンパス開校
- 1991 小田原キャンパス開校  
法学部設置
- 2002 女子短期大学を改組し、人間環境学部設置
- 2009 学院創立125周年
- 2013 大学に理工学部、建築・環境学部、看護学部設置
- 2015 大学に国際文化学部、社会学部、栄養学部、教育学部設置
- 2016 大学に人間共生学部設置
- 2017 大学に経営学部設置
- 2023 関内キャンパス開校

ご協力ありがとうございました

この冊子を作成するにあたり、撮影取材させていただいたクラブ・サークルの学生の皆様、ご協力ありがとうございました。また、校内でのスナップ撮影に快く応じてくださった学生の皆様、寒空の下ご協力いただきありがとうございました。

出場大会・開催日時等、詳しい情報はWEBサイトをご覧ください

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/> 関東学院大学

検索

CAMPUS TOPICS Vol.70  
キャンパストピックスVol.70 2025総集号 2026年3月24日(火)発行

Be yourself  
-すべての選択が未来をつくる-

発行/関東学院大学 学生生活課  
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 発行人:高橋 健太郎  
取材・編集・デザイン/東洋フリアテック株式会社



関東学院大学キャンパストピックス 2025 総集号

# CAMPUS TOPICS Vol. 70

Be yourself -すべての選択が未来をつくる-



Pick up

運動部特集

Be yourself -すべての選択が未来をつくる-

特別企画

マリンスポーツ特集 / 部員を募集しています-ソフトテニス部- / 学生団体紹介 / RA×留学生クロストーク / 学祭紹介

## Be yourself -すべての選択が未来をつくる-

2025年度は関東学院大学にとって、そして学生の皆さんにとって、どんな1年だったでしょうか。スポーツや文化芸術の分野で活躍したクラブ・サークルを中心に1年を総まとめ！キャンパス内での突撃スナップ取材では、学生の本音も聞き出しちゃいます。

### CONTENTS

【運動部特集】Be yourself -すべての選択が未来をつくる-	03
マリンスポーツ特集	14
部員を募集しています-ソフトテニス部-	17
学生団体紹介	18
YOUは何しに海外へ?	20
RA×留学生クロストーク	21
学祭紹介	22
KANTO GAKUIN REAL SNAP 2025	24
チャレンジ奨学生	26
学長賞&功労賞発表!	28
地域貢献・国際ボランティア	30
安否確認システム・学生生活課公式LINE・迷惑行為・SNS・違法薬物・マルチ商法・飲酒・防災	31

## 挑戦の舞台を!

学生生活部長 高橋 健太郎

学生の皆さんは、今年度どんなことがあったでしょうか。充実した一年を過ごせた学生もいれば、目標を達成できず悔しい思いをした学生もいるかもしれません。

この一年を振り返りますと、世界は大きな変化の中にあります。そのような中で2月に開催されたミラノ・コルティナダンベツォオリンピックにおいて、チームジャパンは過去最高のメダル数を獲得しました。競技を通して、日本人選手が見せてくれた挑戦と躍動は、私たちに大きな勇気と希望を与えてくれました。世界の強豪を相手に最後まで諦めず、自らの力を信じて滑り、跳び、走り抜く姿は、まさに日々努力を重ねてきた成果そのものでありました。結果としてのメダルはもちろんのこと、そこに至るまでの過程、仲間と支え合う姿勢、そして敗戦から学び次へ向かう姿勢こそ、私たちが学ぶべき大切な価値ではないでしょうか。

大学生活もまた、皆さん一人ひとりにとっての「挑戦の舞台」です。講義や研究、サークル活動、ボランティア、留学など、多様な機会が用意されています。しかし、それらを実りあるも

のできるかどうかは、自ら一步を踏み出す勇気にかかっています。失敗を恐れず、未知の分野にも果敢に挑戦してください。特に世界へ目を向け、国際的に活躍する機会を積極的に作っていくこともおすすめします。もちろん、挑戦には不安が伴います。思い通りにいかないことや、失敗に直面することもあるでしょう。しかし、オリンピックの舞台に立った選手たちも、数えきれない挫折を経験しています。それでも挑み続けたからこそ、あの輝きがあります。皆さんの努力も、すぐに結果が見えなくても、確実に未来へとつながっています。

また、オリンピックでメダルを獲得した選手たちも、決して順風満帆だったわけではありません。怪我や不調、期待という重圧を乗り越えた先に、素晴らしい結果があります。皆さんの努力も、すぐに形にならないことがあるでしょう。それでも、日々の積み重ねは必ず未来へとつながります。本学での時間が、皆さんにとって生涯の礎となることを心より願っております。共に学び、共に成長し、それぞれの目標に向かって力強く歩んでいきましょう。



## Be yourself -すべての選択が未来をつくる-

ここでの選択が未来をつくる。

大学の部活動では、一人ひとりがさまざまな選択をし、自分たちの可能性を広げようとする選手たちの姿があります。

今年は部活動を通して成長したこと、これからの選択に向けて進む挑戦の軌跡を取材しました。



# ラグビー部

プロ入りを果たした選手にインタビュー

# RUGBY



## 14年振りの選手権大会出場

12月14日(日)、ラグビー部が秩父宮ラグビー場で開催された第62回全国大学ラグビーフットボール選手権大会に出場しました。14年振りに立った大舞台で対戦したのは早稲田大学。結果は惜敗となりましたが、久しぶりの選手権出場に会場は大きな熱気に包まれ、学生、大学関係者や応援に駆けつけたOBの皆さまも大いに沸きました。今回は主力としてチームを支えた安藤さん、高田さん、ラリーさんの3名に、選手権での思い出やプロへの意気込みについて話を伺いました。

## 強い想いで掴んだ選手権、その情熱を胸にプロへ

早稲田戦は、正直、自分の良さを出し切れなかった試合でした。相手のスピードやフィジカルが想定以上で、対応することに精一杯になってしまった感覚があります。でも、春から基礎を徹底して積み上げてきたことや、チームとして準備してきたことは間違っていなかったと思っています。誰一人、負けると思っていませんでしたし、1週間本気で勝ちにいく準備をして臨みました。その一体感は、4年間で一番強かったです。

私は小学1年生のとき、野球を始める前日にいとこに誘われてラグビーに出会いました。工業高校に進み、最初は就職するつもりでしたが、国体で高いレベルを経験して「関東1部でプレーしたい」と気持ちが変わりました。

プロを目指す中では、なかなかトライアウトで結果が出ず、3年の秋を過ぎても内定がもらえませんでした。就職と迷ったこともあります。それでも「絶対にラグビーを続けたい」と決めて挑戦を続け、今年2月頃によく内定をいただきました。私は母子家庭なのですが、私の報告を母はとても喜んでくれて、諦めなくて良かったと心から思いました。さまざまなポジションを経験してきた判断力を武器に、プロでは合流直後から即戦力として試合に出続けられる選手になり、支えてくれた人に結果で恩返ししたいです。

Be yourself

キャプテンとして、プレイヤーとして

選手権には怪我を抱えたまま出場しました。1年生から共に戦ってきた高田やラリーと最後までやり切ったからです。そんな自分を受け入れてくれた仲間感謝しながら、キャプテンとして全力でチームを引っ張りました。

Q 高田さんとラリーさんの良いところは？

高田は口下手だけど、プレーで見せて背中であげてください。多くは語らないけれど、想いを共有できて何度も教わりました。ラリーはとにかくフィールドで皆を奮い立たせてくれる。チームの大黒柱です。

日野レッドドルフィンズ 内定選手

経営学部 経営学科 4年 安藤 悠樹 さん



## 鉄壁のスクラムへの挑戦、フィジカルとマインドを一つに

私は高校2年の夏まで野球をやっていました。目の影響で続けられなくなったとき、ラグビー部の監督に声をかけてもらったのが始めたきっかけです。最初は迷いもありましたが、体格を評価してもらい、「上のレベルでもやれる」と背中を押してもらいました。そこから関東学院大学にご縁をいただき、大学2年のときに埼玉パナソニックワイルドナイツから声をかけていただきました。

大学ではスクラムとボールキャリアを自分の強みにしてきました。特にスクラムは4年間ずっと考え続けてきた部分です。今年は、過去に自分が上級生に意見を言えなかった経験を踏まえて、後輩が発言できる環境をつくることを意識しました。自分が一方的に言うのではなく、まずは後輩の意見を聞き、自分も後輩の良いところは吸収する。その積み重ねが、チームの一体感につながったと思っています。その成果の一つがラインアウトです。ジュニアの選手たちも対策に協力してくれて、結果、リーグ戦では本学が一番スチール回数が多かったと聞いています。早稲田戦では課題はあるものの、通用した実感はありました。

ラグビー経験は約6年とまだまだ浅く、伸びしろがたくさんあると思っています。ここからさらに経験を積み、将来は日本代表を目指して成長し続けたいです。

Be yourself

自分の経験から文化を変える

1年次から試合に出ている分、先輩の意見に従うだけの時期もありました。それは安藤やラリーも感じていたことで、今年は後輩も積極的に発言できる環境を目指しました。この文化は今後も継承してほしいです。

Q 安藤さんとラリーさんの良いところは？

安藤はキャプテンとして本当に頼れる存在です。怪我をしても弱音を見せず戦い続ける姿に、熱い覚悟を感じました。ラリーは発信力があり、堂々とチームを引っ張る姿がとてもカッコイイと思います。

埼玉パナソニックワイルドナイツ 内定選手

経済学部 経済学科 4年 高田 凱斗 さん



浦安D-Rocks 内定選手

人間共生学部 コミュニケーション学科 4年 ラリー・ティポアイルーテル さん



## 「情熱」は負けない。言語の壁を越えて声でつなぐ

私は4歳からラグビーを始めました。家族がラグビーをしていたので、自然とこのスポーツの中に入りました。一度ラグビーから離れたこともありましたが、もう一度挑戦したいと思い、高校から日本に留学しました。進学した倉敷高校では花園にも出場することができ、大きな経験を積むことができました。もともとは別の大学に入学が決まっていたのですが、ラグビー部の板井さんにお声がけいただき、関東学院大学の歴史やこれまでの活躍に感銘を受けて本学に進学しました。私は関東学院大学ラグビー部初の留学生選手です。

大学では安藤とダブルキャプテンを務めました。自分は留学生ということもあり日本語が堪能ではないので、指示やまとめ役は主に安藤に任せ、自分は大きな声とプレーでチームを引っ張ることを意識してきました。とにかく、チームを盛り上げる役を徹底しました。今年のチームは本当にファミリーのような存在で、学年関係なく意見を言い合える関係です。安藤と高田はもちろん、チーム全体が最高の仲間です。だからこそ選手権の大舞台に立てたのだと思います。

プロは内定しましたが、父からはメンバーに入ってから勝負だと手厳しい言葉をもらいました。強みは「情熱」。支えてくれた人のために戦い続け、将来は日本代表を目指します。

Be yourself

ラグビーはコミュニケーション

ラグビーはチームスポーツで、コミュニケーションが欠かせません。日本特有の上下関係や発言を控える空気を、留学生という立場から変えたいと思い4年間取り組んできました。その挑戦は大きな意味があったと感じています。

Q 安藤さんと高田さんの良いところは？

2人とも最高。安藤はオールラウンダーで、まさにキャプテンの器です。私が皆に伝えたい事も言語化して言ってくれます。高田は短いラグビー歴ながら、強さもスキルもあって今後の活躍が楽しみです。

# バスケットボール部

## 東京2025デフリンピック バスケットボール女子で金メダルを受賞



4年に1度開催される聴覚障がい者の国際大会「デフリンピック」が東京・大田区総合体育館で行われました。女子バスケットボール日本代表には、本学女子バスケットボール部の加藤志希さん、志野さん双子がそろって選出。3年前から代表合宿に参加し、約25人の候補から12人に絞られる厳しい選考を勝ち抜きました。大会では全5試合に勝利し、決勝で“世界一”を守ってきた強豪アメリカを1点差で破り優勝。日本が悲願の頂点に立ちました。加藤姉妹のお二人にデフリンピックやそれまでの道のりについて語っていただきました。

Be yourself

### 選手の形だけではない「支える力」に

怪我で思うように練習できない時期は、マネージャーのように選手を支えました。裏方として動く中で「支える」ことの大切さややりがいを実感。将来は、耳が聞こえない人の力になれる仕事に就きたいと考えています。

人間共生学部  
共生デザイン学科 2年  
加藤 志希さん



社会学部  
現代社会学科 2年  
加藤 志野さん

Be yourself

### 自分の個性を活かして、デフスポーツに関わりたい

難聴であることやデフリンピック出場の経験を、将来につなげたいと考えています。社会福祉の資格を取得し、聴覚障がいのある方を支えながら、デフスポーツの発展にも関わっていきたくと思っています。

Q 志希さんってどんな人？

Q 志野さんってどんな人？

根っからの妹タイプです。コミュニケーションをとるのが上手でチームをほんわかさせてくれます。試合ではスタメンで長時間起用される選手なので姉として誇りに思います。今後の活躍が楽しみです。

しっかりしていて頼りになります。私が姉に間違われることが多いのですが、話すと完全に姉は志希ですね。怪我の時は練習できなくてつらいはずなのに献身的に裏方としてチームを支えてくれて、感謝しています。

### 怪我を乗り越えて掴んだデフリンピック

私は昨年8月に靭帯を損傷してしまいました。復帰まで1年かかると言われ、選考から落ちるかもしれないという不安もありました。だから選ばれた時は本当に嬉しかったです。デフリンピックではシューターとして戦いました。また、怪我で動けない時期は、マネージャーのような立場でチームを支えました。印象に残っているのは準決勝のウクライナ戦です。接戦の中で決めたスリーポイント。自分のプレーが戦況を動かしたことは大きな自信になりました。



### ハプニングも接戦も、すべてが詰まった世界一

3年前から日本代表の合宿に参加し、最終的に約25人の中から12人の選手に選ばれました。ポジションはセンターです。特に印象に残っているのは、初戦のウクライナ戦です。試合中に突然パッシュが脱げるというハプニングがありました。バスケ人生の中で初めての経験がこんな大舞台ということもあり、焦りました(笑)。決勝の相手は、これまで“世界一”を守り続けてきたアメリカでした。1点差の大接戦で勝利した時は本当に嬉しかったです。



# BASKETBALL

## 「勝たせられるキャプテン」へ、インカレ出場への決意

2025年度の男子バスケット部は、新人戦ベスト16、スプリングトーナメントベスト32、リーグ戦2部9位という結果でした。リーグ戦ではすべての試合に出場し、ポイントガードとして、時にはゲームキャプテンとして、仲間とのコミュニケーションを大切にしながらコートに立ち続けた1年でした。駒澤大学戦では残り3分で15点差を覆す逆転勝利を経験し、江戸川大学戦では下位チームとの入れ替え戦を回避する重要な1勝を掴みました。

2025年度は、速い展開と前から当たるディフェンスを軸にしたオールコートバスケットに挑戦しました。1、2年のときは試合に出られないことも多く、モチベーションの維持に苦戦しましたが、「3年では絶対に試合に出る」と自分を鼓舞し、日々の練習に励み続けたことで3年ではスタメンに選んでいただきました。この1年はすべての試合が成長につながったと感じていますが、シーズン後に監督から「一番成長してくれた選手」と声をかけていただいたことは大きな自信になっています。

今年はキャプテンとして、チームを勝たせられる存在になることが目標です。同期や後輩の意見も大切にしながら、全員が納得するチームづくりをしていきます。目指すはリーグ戦2部で3位以内に入り、1部へ昇格しインカレへ進むことです。男子バスケットらしい元気さとポジティブさを武器に、さらに一段階上を狙います。



法学部  
地域創生学科 3年  
佐藤 晃明さん

Be yourself

### 2巡目で感じた成長

リーグ戦では1巡目の動きを対策され、外のシュートを打たされる場面が多かったのですが、仲間の「どんどん打て」を信じた結果、2巡目の方が成功率が上がり、自分の成長を実感できました。

## バスケットボール部大会実績

### 男女バスケットボール部の大会実績をまとめて大公開！

#### 男子バスケットボール部

リーグ戦1部昇格を目指し、2部9位という成績を収めました。

- ・第65回関東大学バスケットボール新人戦：ベスト16
- ・第74回関東大学バスケットボール選手権大会：ベスト32
- ・第101回関東大学バスケットボールリーグ戦(2部)：9位



#### 女子バスケットボール部

リーグ戦2部Bでは全勝優勝という好成績を残し、2部A昇格まであと一歩というところまで奮闘しました。

- ・第15回関東大学女子バスケットボール新人戦：ベスト32
- ・第59回関東大学女子バスケットボール選手権大会：2回戦敗退
- ・第75回関東大学女子バスケットボールリーグ戦(2部B)：優勝



# 剣道部

# KENDO



## 第73回全日本学生剣道選手権大会:ベスト8

### 全国の舞台で掴んだベスト8

2025年度、私が掲げていた目標は「日本一を目指す」ことでした。高校でも日本一を目指す環境にいたので、口だけでは届かない厳しさは身を持ってわかっていました。だからこそ、大学では主体的に考えて練習する姿勢を大事にしました。キャプテンとしては、全員が同じ温度感ではないことの難しさも受け止めつつ、無理強いにしない形でチームを引っ張る役割を意識していました。

2025年度は、個人戦で全国大会ベスト8に入れたのが大きいです。個人で全国の舞台に立ったのは初めてでした。元々メンタルが強いタイプではないので、「人一倍やって自信をつけるしかない」と思い、大丈夫だと思えるまで努力を重ねて挑みました。準々決勝では筑波大学に進んだ高校時代の後輩と対戦し、延長戦の末に負けてしまいました。しかし、同じ目標を追った昔の仲間とライバルとしてぶつかったことは感慨深かったです。団体戦は関東で敗れてしまい全国には届かずでした。団体戦ではなく個人戦が7戦つながってしまったような、チーム力を十分に発揮することができず、剣道部としては悔しさと課題が残った1年でもありました。

剣道部はコミュニケーションを取りやすい関係づくりに注力しているので、馴染みやすい雰囲気です。加えて、本気にもなれるメリハリある環境なので、そこが最大の魅力かなと思います。私自身、この4年間のびのび稽古ができたと感じています。春からは実業団入団も決まり、社会人になっても剣道を続けていきたいと思っています。

経済学部 経済学科 4年  
内藤 瑞貴 さん



### Be yourself

#### 2年前の予選敗退がターニングポイントに

ターニングポイントは、2年生のときに出場した団体戦で予選敗退してしまったとき。熱い想いでやっても勝てないときはあるということを実感し、試合に対する考え方や行動を改めるきっかけになりました。

#### Q 最近ハマっていることは?

音楽と格闘技です。好きなアーティストはAlexandrosとoasis。格闘技は剣道の間合いとかカウンターとかと似ていると思ったのと、強さを追い求めるストイックな部分に惹かれました。体験にも行き、刺激的で楽しかったです。

## 第44回全日本女子学生剣道優勝大会:ベスト16

### 一本一本の積み重ねで届いた全国ベスト16

2025年度は4年生が私一人という体制で、主力は1・2年生の若いチームでした。大きな舞台を経験していない選手も多く、「今年の女子は入賞が厳しい」と周囲から言われたことも事実です。だからこそ私は先輩としての役割を強く意識しました。緊張しやすい子、考え込みやすい子には個別に声をかけ、不安を少しでも軽くすることに注力しました。もちろんプレッシャーがなかったわけではありません。それでも「難しい」と言われる状況こそが、逆にバネとなり闘志に火がつけました。「かっこ悪くてもいい、全員引き分けでも100点」。そう伝え、勝敗以上に内容を大切にすることを徹底しました。目標はただ一つ、最後の大将戦まで勝負をつなぐこと。その積み重ねです。

初戦の東北大学戦は身長差もあり、簡単な相手ではありませんでした。それでも一戦一戦を丁寧に戦い抜きました。結果は2戦勝利、3戦目で中央大学に敗退し、全日本ベスト16という成績でした。悔しさはありますが、胸を張れる結果だったのではないかと思います。

剣道部の魅力は、何より賑やかで温かい雰囲気と高い自由度にあります。先生に教わるだけでなく、自分たちで練習メニューを考え、意見をぶつけ合える環境です。高校時代に試合に出られなかった選手も大学で全国に出場できているのもおススメしたい点ですね。

卒業後は千葉県で中学校教諭として働きます。第一線からは退きますが、形を変えて剣道に関わり続けたい気持ちです。支えてくれた人への恩返し。その思いを胸に、新たな一歩を踏み出します。

国際文化学部  
比較文化学科 4年  
又吉 可奈子 さん



### Be yourself

#### 自分らしい後輩との関わり方

先輩として後輩と接するときに意識していたのは、傲慢にならないようにすることです。しっかり言うときは言う、自分より良いところがある子には意見を聞く。自分らしい関わり方で後輩との距離を縮めていました。

#### Q 最近ハマっている趣味は?

引退後は時間に余裕ができたので料理にハマっています。油淋鶏は自分でも驚くくらい美味しく、最近の大成功作です! また、韓国ドラマを見ることも好きで、卒業までの余暇で一気に見る予定です。

# サッカー部

プロ入りを果たした選手にインタビュー

# SOCCER

## チャンスはみんなある。最高の環境からプロの世界へ

2025年度は、プロ選手になることを一番の目標にしていました。副キャプテンとして、まずは声で引っ張ること。相手選手と対峙したときは絶対に負けないこと。器用さよりも、闘う姿勢で勝負する。それを毎日の練習から意識してきました。大学で成長できたのは、試合中の立ち位置、パスを出す先の判断です。高校時代より格段に技術が上がったと実感しています。

チームの順位は納得いくものではありませんでしたし、自分のプレーにも波がありました。でも、関東リーグ前期やアミノバイタルカップではコンディションも良く、評価してもらえた実感があります。7月に水戸ホーリーホックへの内定をいただいたときは、とても嬉しかったです。当時、J1に昇格しそうだったチームということもオファーを受けた決め手でした。(その後、水戸はJ1へ昇格)

サッカー部の雰囲気はとても快活で、全員が真剣に取り組める環境です。どの選手にも試合に出られるチャンスがあり、また、マリノスからスタッフや監督が来ていただいているので、とてもレベルの高い指導を受けています。最高の環境だったことで、プロへの第一歩を踏み出せました。2026年度は開幕戦スタメンを狙い、必要とされる選手になることを目指します。そして、いつか海外にも挑戦したいと思っています。

水戸ホーリーホック  
内定選手

経済学部 経済学科 4年  
佐々木 輝大 さん



©MITO HOLLYHOCK

Q 野嶋さんの良いところは？

プレーについては本当に頼りになります。苦しい試合でも、主人が点を取ってくれて何度も助けられました。普段はムードメーカーで明るい雰囲気をつくってくれますね。とても良いキャラをしています。

Be yourself

強みを武器に、謙虚に挑む

体が大きく足も速いことは自分の強みです。プロの練習でも手応えを感じました。しかし慢心せず、社会人としての常識や人としての在り方も大切にしながら、チームの一員として自分らしく成長していきたいです。

## 関東学院大学で自ら掴んだプロの道

私の出身高校は、全国大会に出場したことがありません。関東学院大学のサッカー部には強豪校出身の選手が多く、私は無名に近い存在でした。それでも、プロを目指したいという気持ちを持ち続けていました。だから大学に入るとき、「変なプライドは持たない」と決めました。奈良監督の言葉を素直に受け止め、まずは求められたことをやり切る。そこから少しずつ、自分の武器を見つけていこうと考えました。フォワードですが、関東学院では守備も強く求められます。得意とは言えない部分でしたが、逃げずに向き合い、毎日の練習で意識を変えていきました。

2025年度は、得点は想像以上に伸びました。守備を続けてきたからこそ、ドリブルやシュートがより生きた感覚があります。周りを使いながら崩す形にも、少しずつ自信が持てるようになりました。これらの成長ができたのは、関東学院に来たからだと思っています。

内定は11月、AC長野パルセイロです。スカウトを待つのではなく、自分から動いて練習に参加しました。何度も挑戦し、上手くいかないことも経験しました。それでも最後に決まった瞬間は、安堵と喜びが一気に込み上げました。2026年度はまず、プロの舞台で自分を出すこと。そしてチームの中心へ。無名からでもここまで来られました。夢は大きく、パルセロナです！

AC長野パルセイロ  
内定選手

社会学部 現代社会学科 4年  
野嶋 圭人 さん



©2008 PARCEIRO

Q 佐々木さんの良いところは？

リーダーシップがあるので、ピッチにいるだけで安心します。誰よりも闘争心があるし、声を出してチームを引っ張ってくれるので、試合では輝大のおかげでメンバーの気持ちが団結するなと感じていました。

Be yourself

絶対に諦めない心で

私はプロ内定が遅かったです。焦りもありましたが、諦めずプロチームの練習に参加し続け、自分の強みを伝える工夫を重ねました。表現方法やチームとの向き合い方も少しずつ理解。内定を手にした瞬間は、ほっとしました。

# 硬式野球部

## 投げられない3年を越えて夢へ踏み出す

2025年度、硬式野球部は神奈川秋季1部リーグ戦2位で第21回関東地区大学野球選手権大会に出場しました。しかし結果は初戦敗退。明治神宮野球大会への出場は叶いませんでした。私はピッチャーとしてチームに所属していましたが、1年生から3年生にかけて肩や肘を故障し、年単位で投げられない時期が続きました。そのため、応援やサポートに回る場面が多かったです。仲間が活躍する姿を見て、苦しいと感じる時期もありました。それでも腐ることなく、「野球が好きだ」「いつか必ず投げられる」という気持ちを忘れずにいました。腕が使えない分、走り込みや腕以外の筋力トレーニングを継続。自分を信じ、野球と向き合い続けてきました。私たちの学年は人数が少ないですが、全寮制の生活で自然と絆も深まり、怪我に苦しむ私を仲間が応援してくれたことは、大きな支えでした。

卒業後は独立リーグのチームに進みます。私は緊張しやすい性格ですが、それを悪いことだとは思っていません。緊張するからこそ得られるものがあると思っています。独立リーグは1年目からドラフトのチャンスがあります。まずはNPBからの指名、そして横浜出身の私にとって、地元球団であるベイスターズへの入団が大きな夢です。いつか、二桁勝利とタイトルを獲得し、野球好きな子どもたちから「投げ方が鈴木だ」と言われるような選手になりたいです。

# BASEBALL



経済学部  
経済学科 4年  
鈴木 涼希 さん

ありのままの自分を信じて

怪我で投げられない時期も、無理に強がらず、緊張しやすい自分も含めて受け入れてきました。好きだから続ける。その積み重ねが、プロを目指す道を切り拓いたと感じています。

Be yourself

# 陸上競技部

# TRACK AND FIELD

## チーム力を強化し、2026年は高い目標へ

2025年度、僕らの合言葉は「段階を踏んで、箱根駅伝へ」でした。チームをまとめるのは簡単ではありませんでした。主将としてチームを鼓舞する機会は多々ありますが、言い過ぎれば相手の心が沈むし、言葉が足りなければ届かない。だからこそ「まず自分が練習で見せる」と決めて、高い目標から逃げない1年間にしました。

また、「チームの土台づくり」を本気で進めました。ミーティングで目標を共有し、スタッフとも会話を増やしました。今年は女子マネージャーが5名入ってくれて、記録入力や試合の帯同でチームを支えてくれました。怪我をした選手については、強制的な練習プランをやめ、自分で内容を考えるスタイルに変更しました。その結果、前向きな気持ちを保ちながらリハビリや練習に取り組めるようになっていきます。

競技の結果は箱根駅伝予選会が昨年30位から今年29位。合計タイムは21分短縮できました。12人中4人が初出場の中で、「変わってきた」と手応えがあります。副主将がデータをまとめ、現在の位置を可視化できたのも大きいですね。

2026年度は全日本予選会へつながる関東予選会を突破し、出場権を獲得できる20位のボーダーを越えたいです。今は25位あたりで20位との差は約1分半。届かない差ではありません。ラストチャンス1年、支えてくれる人たちに結果で恩返しします。



社会学部  
現代社会学科 3年  
佐々木 敦弘 さん



練習で信頼をつくる

主将になって気づいたことは「信頼関係」は気持ち一つでなるものではなく、日々の積み重ねで形成されるということです。相手に合わせて声をかける、自分が練習で見せる、そんな積み重ねで、チームも自分も変わってきました。

Be yourself

# ウィンドサーフィン部

# WINDSURFING

## 「スタートが8割」2年目で挑んだ全国の舞台

ウィンドサーフィン部は男女合わせて20人程度の少人数の部活です。現在は3年生がいないので2年生の私がキャプテンとして部活をまとめています。ウィンドサーフィンは大学から始めたのですが、1年生のころはすぐに海に落ちてしまい、感覚を掴むのが難しかったです。ですが、先輩たちの指導がとても分かりやすく、ぐんぐん成長できました。

2025年度の個人のハイライトは、関東での予選を通過し、沖縄で開催されたインカレに出場したことです。2年生でのインカレ上位入りは簡単ではありません。初出場だった私は、順位を追うよりも、まずは経験を積むことを大切にしました。試合で勝敗を分けるのは「スタートが8割」と言われ、3、4年生のレベルが高く何度も弾かれてしまいました。風を読み、コースを選ぶ判断力も差があると痛感しました。結果は下の順位ではありましたが、大学から始めて2年目でインカレまで経験できたことは、大きな自信になりました。

2026年度の個人の目標としては海に出る回数を増やすことです。また、部全体の目標としてはメンバーのレベルの底上げです。今は自分のことで手一杯になっていますが、自分たちが先輩たちに教えてもらったように指導していき、自分だけでなくチーム全体を強くしていけるようキャプテンとして努めていきたいです。



法学部  
地域創生学科  
地域安全コース 2年  
小川 雅也 さん

Be yourself

### 世界選手権を逃した悔しさを力に

1年生のとき、ビギナークラスでイギリスの世界選手権出場権を獲得しましたが、怪我でドクターストップがかかり、出場が叶いませんでした。あのときの悔しさが今の私の原動力となり、練習も自然と気合が入ります。

# アメリカンフットボール部

# AMERICAN FOOTBALL



法学部  
法学科 4年  
前澤 颯太 さん

## 合言葉は「メリハリ」。さらなる高みを目指して

私は中学まではサッカーをやっていた、アメフトを始めたのは高校からでした。体格を活かせるスポーツだと感じたこと、先輩たちが本気でぶつかり合う姿が純粋にかっこよく見えたのが理由です。大学に入ってから、高校とは比べものにならないスピード感や当たりの強度に圧倒されました。ハリケーンズは50人弱のチームですが、新入生の半数以上が未経験者です。私のような経験者は少なく、1年次からチームメイトに教えることもありました。そんな中で迎えた1年生の初公式戦では、長い間勝てていなかった関東学院大学が久しぶりに勝利を挙げることができました。チーム全員で時間を使い切って勝ち切ったあの瞬間は、「このチームは変わる」と実感した試合でした。

4年生では人生で初めて主将を任せられ、勝つための土台づくりを一番大切にしました。コーチが来られない練習は選手主体で回し、声かけや判断基準を揃えることを意識しました。合言葉は「メリハリ」です。2025年度は2部Bで一次リーグ2勝2敗から上位リーグへ進出し、二次リーグも1勝1敗。前年より順位を伸ばし、チームとして確実に前進できた1年だと感じています。この流れを後輩たちにつなぎ、個々のプレーもチーム力も活気にあふれた強いチームになってほしいと願っています。

Be yourself

### 自分の言葉で、想いを伝える

発言したり何かを決断するのは得意な方ではないのですが、主将として自分の言葉で部員たちに想いを伝えようと頑張ってきました。苦勞してまとめたチームで勝利した瞬間は、本当に嬉しかったです。

# チアダンス部 Fits

# CHEER DANCE

## 4年生全員で立つ舞台を目指して

チアダンス部Fitsは強化指定ということもあり、活動の約7割は大会に向けた取り組みでした。1回3時間の練習のうち、1時間半を基礎に充て、徹底して土台づくりをしてきました。Fitsでは大学から始める初心者も多いため、基礎練習を重ねることで、未経験でも自信を持ってパフォーマンスができる環境づくりを意識しています。

大きな成果となったのが、2月のUSA Regionalsです。関東・神奈川地区で2位となり、全国大会へ進出。全国では13位という結果でしたが、全国の舞台を経験できたことは、何ものにも代えがたい自信につながりました。

一方、10月の全日本チアダンス選手権大会関東予選に向けては、入部当初から決めていた「同期全員で大会に出る」という想いを貫き、4年生全員を含む10人での出場を決断しました。コーチから「情だけじゃ勝てない」と言われ、予選1か月前には葛藤の中で涙ながらに想いを伝えた日もあります。結果は、激戦区のスモールノミディアム部門で予選落ち。残念な結果ではありましたが、一人ひとりと向き合い、最適なトレーニングを探し続けた時間は、私自身の成長そのものでした。

後輩には「周りを頼り、チアを好きでいてほしい」と伝えたいと思います。Fitsは未経験者も大歓迎です。興味のある方、新しいことを始めたいと思っている方はぜひ挑戦してみてください。



教育学部  
こども発達学科 4年  
増田 詩音 さん

Be yourself

### 自分が成長し続けること

「私の成長が止まると、チームの成長も止まる」と思い、Fitsの練習後も母校の自主練に足を運ぶなど、チアに向き合う時間を増やしました。自分が変わったからこそ、仲間も信じてついてきてくれた。その事実感謝しています。

# 空手道部

# KARATE



建築・環境学部  
建築・環境学科 3年  
高橋 健之介 さん

## 学生主体で挑む、2026年は全日本へ

2025年度の空手道部は「全日本出場を目指す」という強い覚悟を持ってスタートしました。自分自身、キャプテンとして初めてチームを引っ張る立場になり、正直なところ不安の方が大きかったです。ただ、これまで厳しい環境で空手に向き合ってきた経験があるからこそ、今は逃げずに向き合おうと思っています。「しっかり言わなきゃいけないことは、はっきりと言う」。その意識を胸に、全員が同じ方向を向けるチームづくりを目標にできました。

全日本に出場するために新たに力を入れていきたいのは、体力面と身体面の強化です。関東で勝ち上がるためには、技術以前に体の強さが欠かせません。平日の練習メニューは学生が主体となって考え、時間の使い方をより有効に活用していけるよう、徹底的に改善していこうと思っています。目標である全日本出場のために、2026年度は「関東で3試合目まで勝つ」ことを明確な目標に、全日本への道を切り拓きたいと思っています。

部内はとても明るく、男女関係なく声をかけ合える風通しの良い雰囲気です。週4日の活動なので、学業との両立もしやすい環境だと思います。空手は、自分の弱さや真正面から向き合える競技です。この場所なら、確実に成長できる。そう胸を張って言えます。

Be yourself

### 主体性が導いた成長

高校までは監督に言われたことを必死にこなす毎日でしたが、大学では自分たちで考えて動くようになりました。「自分はどうしたいか」を考える力が身につく、空手にも自分自身にも一番活きていると感じています。

# ヨット部

# SAILING

# カヌー部

# CANOE



## 海を走る青春、自然を味方にするスポーツ

私は高校からヨットを始めたのですが、高校最後の大会は悔しい結果に終わったので、大学では結果を残したいという強い思いがありヨット部に入りました。ヨットは風や波、天候と常に向き合う競技です。同じレースは一つとしてなく、自然を相手に頭と体をフルに使います。自分に合う天候かどうかということも重要で、時には運が勝敗を左右することも含めて、その難しさと面白さが、この競技の魅力だと感じています。少人数のチームだからこそ、一人ひとりが自然を読む力を身につけることを大切にしてきました。

2025年度は、後輩育成とチーム力の底上げに力を入れました。部員の多くが大学からヨットを始めたメンバーで、教える立場になる場面も増えました。自分の練習に集中できないもどかしさもありましたが、その分、海の上で仲間と感覚を共有できる時間が増えたと思います。秋のインカレでは、決勝進出を5点差で逃す結果に。悔しさは残りましたが、自然条件の厳しいレースを最後まで走り切れた経験は、大きな自信になりました。

現在は部員が6名でとても少ないですが、2026年の関東インカレ決勝進出を目指してチーム一丸となって頑張りたいと思います。海を全身で感じながら走る爽快感、陸上では見られない景色、風をつかんだ瞬間の加速。そのすべてがヨットの魅力です。また、関東学院大学は海が目の前なので、他大学よりもすぐ練習できることが強みです。この競技だからこそ味わえる達成感を、次は結果として証明したいと思っています。

栄養学部 管理栄養学科 3年  
井川 ころろさん



Be yourself

海が育てた自信

自然という圧倒的な存在に立ち向かうことが自分を強くしました。寒さや停滞期で心が折れそうでも、風を読み切って艇が伸びた瞬間に「まだやれる」と思えます。キャプテンとして、常に前向きな思考でいたいと思います。

Q 井川さんが得意な天候は？

順風から強風が一番得意です。風が強いほど艇を繊細にコントロールする感覚が生まれます。風をつかんで一気に加速した瞬間は本当に気持ちよくて、「ヨットをやっているよかった」と一番実感できる天候です。

## 1年目から全国へ、初心者でも全国タイトルも夢じゃない！

僕がカヌー部に入って一番感じたことは、挑戦しやすい環境が揃っているということです。大学の目の前に川と湾があり、学校が終わったらすぐ着替えてすぐ乗れちゃいます！この練習環境は他大学にはなかなかないので、毎日水に触られること自体が上達への近道だと感じています。カヌーは高校から始めたのですが、大学ではレベルが格段に上がります。その中で、まずは関東インカレで決勝に残ること、そして全日本インカレへの出場を意識して1年をスタートさせました。結果として、関東インカレでは決勝に進出し6位入賞、200メートルでは4位と、コンマ差の勝負を経験しました。また、全日本では0.08秒差で決勝進出を逃してしまいましたが、全国で通用する手応えを感じられた大会でした。

大学カヌーの特長として、未経験者でも全国大会に出場できる「新人枠」というものがあります。実際に、始めて1年以内で全国を目指せる競技は多くありません。珍しい競技だからこそ、未経験でも努力が結果につながりやすく、達成感も大きい部活だと思います。カヌー部は現在少人数ではありますが、外部コーチやOBの方々が練習を見てくださり、技術面だけではなくさまざまなサポートをしてくださっています。カヌーは海で漕ぐだけではなく、肉体的強化も重要です。いかに「舟を動かす体の使い方」ができるようになるか。すごく難しいですができた瞬間に一気に伸びるのでそこが面白くて楽しい、成長幅の大きい競技だと思います。少しでも興味があれば、気軽に体験に来てみてください！

社会学部 現代社会学科 1年  
佐藤 善信さん



Be yourself

カヌーは力任せでは進まない

今練習で意識していることは、力任せに漕ぐのではなく「舟を動かす」感覚を大切にすることです。波があってもフラットでも舟をまっすぐきれいに進められるかが重要なので今の実力に安心せず、日々練習に取り組んでいます。

Q 一番得意な距離は？

自信を持って言えないですが、今のところ1,000メートルです。少しずつスピードが上がってきています。高校時代はあまり結果を残せなかったため、大学で入賞できるように、続けて良かったと思いました。

# ウィンドサーフィン部 WINDSURFING



## 新しいことに挑戦したいなら、ウィンドサーフィン部!

私がウィンドサーフィンを続けていて強く感じる魅力は、他大学とのつながりが大きく広がる点です。インカレなどの大会では、関東圏だけでなく、全国の学生と同じ海で戦います。そこで出会った仲間と情報交換をしながら切磋琢磨できる環境は、とても刺激的です。競技を通して全国に仲間ができるという経験は、なかなか得られないものだと思います。

また、初心者でも本気で挑戦できる競技であることも大きな特長です。私自身も大学から始めました。最初は思うように乗れず、何度も海に落ちましたが、初心者用の道具や段階的な練習環境が整っているので、着実に成長できます。先輩方が丁寧に指導して下さるので、不安よりも「上手になりたい」という気持ちの方が強くなりました。

練習は鎌倉の由比ヶ浜で行っています。近くのウィンドサーフィンショップと契約していて、道具を置かせてもらっているので、身一つで行けるのも魅力です。大学から海が近いこと、道具管理も安心できることなど、充実した環境が揃っていることは大きな強みです。練習や大会では各地の海を訪れる機会もあり、競技を通してさまざまな土地に足を運べます。遠征は観光ではありませんが、仲間と全国を回る時間は大きな楽しみです。そして何より、大学から始める選手が多いからこそ、初心者でも全国大会や世界大会を目指せる可能性があります。新しいことに挑戦したい人にとって、これほど魅力的な部活はありません。興味がある方はぜひ体験に来てみてください!

**Q** 2026年力を入れたいことは?

新歓に力を入れて、多くの新生入生に入部してもらるように頑張りたいです。メジャーではないスポーツだからこそ、その魅力を一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。

**Q** 将来の夢は?

消防士になることです。高校時代は部活中心で勉強が後回しでしたが、大学では文武両道を実践できています。この勢いそのまま試験にも合格したいです。自分を律する力が身についたのは、何事にも本気で挑める関東学院大学の環境のおかげだと感じています。

法学部  
地域創生学科  
地域安全コース 2年  
小川 雅也 さん



## 部員を募集しています // ソフトテニス部



経営学部  
経営学科 3年  
角田 華瑛 さん

*Be yourself*

みんなが楽しく  
プレーできるチームへ

年次が上がるにつれて周囲に気を配れるようになりました。主将として、みんなが楽しくテニスに向き合えるチームをつくりたいです。深谷さんのポジティブさも見習いながら頑張っていきたいと思っています。

経験者はもちろん、初心者の方、  
ちょっと運動したいという方大歓迎!



人間共生学部  
共生デザイン学科 4年  
深谷 歩未 さん

*Be yourself*

自分の得意を活かした戦い方

ボールがたくさん触れたくて後衛を選びました。戦略を考えたりするよりも、体力を活かして粘り強くラリーを続け、相手の嫌なコースへ打ち分けるプレーが持ち味です。自分に合った戦い方で技術を磨いてきました。

## 「楽しむこと」が一番大事!

ソフトテニス部は、勝つことだけでなく「一緒に楽しむ」ことを大切にしているチームです。目標は、みんなが前向きにテニスを楽しみながら、フルメンバーで大会に出場できるチームにすること。そのためにも、新しい仲間を増やしたいと考えています。私がソフトテニスを始めたのは中学の体験入部がきっかけです。もともとは文化系志望でしたが、体験入部がとても楽しく、絶対入部しようと決めました。前衛になったのは身長が高かったからという理由でしたが、今ではネット前で流れを変える役割にやりがいを感じています。

ソフトテニスの魅力は、硬式とは違うボールの柔らかさにあります。ボールの変化や回転、カットの幅が広く、ラリーの展開がとても多彩です。力だけで押すのではなく、コースやタイミング、駆け引きが重要になるところが面白いと感じています。ダブルスは二人で一本を取りにいって達成感があります。練習は週3日で、学業やアルバイトとも両立しやすい環境です。経験者はもちろん、ブランクがある人も歓迎です。少しでも気になったら、まずは体験に来て、ソフトテニスの楽しさを感じてください!

**Q** 趣味は何?

目的を決めずに買い物へ出かけ、ぶらぶら巡ることが趣味です。気になるお店にふらっと立ち寄り、新しい発見を楽しむ時間がリフレッシュになっています。横浜に近い関内キャンパスの立地も気に入っています。

## 和気あいあいと、でもプレーは真剣に!

ソフトテニス部は、少人数だからこそ一人ひとりが主役になれるチームです。女子は現在4人で、人数は多くありませんが、「みんなで楽しく戦おう」という雰囲気が高く、試合でも前向きな声が続きます。特に印象に残っているのは、2年生の関東リーグで1年生の華瑛さんと組み、劣勢から逆転した試合です。粘り続けることで流れを引き寄せられた経験は、大きな自信になりました。

私は後衛で、コースを狙いながらラリーをつなぐプレーが持ち味です。今年はシングルスも出場しました。シングルスは勝てばすべて自分の力、負けても自分の責任。プレーの組み立てを自由に考えられるところが魅力だと感じています。また、男女で一緒に練習することも多く、そこも大きな魅力です。男子の速いボールは女子の強化になりますし、女子の粘るスタイルは男子にとっては新鮮なようで、お互いに刺激になります。男女の仲も良い温かい雰囲気です。上手い・下手は関係ありません。少しでも興味があれば、ぜひ体験に来てください!

**Q** 趣味は何?

趣味はかわいいセルフネイルをすることです。大会は特に規定がないので、プレーに支障がなければ好きなデザインで出場できます。デザインが好きでこの学部を選び、就職先はジュエリー系企業に決まりました。

# 学生団体紹介

関東学院大学には、学生が主体となって大学を盛り上げている団体が数多くあります。今回はその中から、オープンキャンパススタッフ、法学部のES、学生メンターの3団体をご紹介します。

## オープンキャンパススタッフ



オープンキャンパススタッフは、赤いポロシャツを着て活動していることから「赤ポロ」と呼ばれています。主に6月から8月のオープンキャンパスを中心に、高校生や保護者へキャンパスツアーや大学紹介、個別相談などを行う学生団体です。学校見学や合格者対象見学会、平湯祭との連携企画にも参加し、学生ならではの目線で大学の魅力を温かく伝えています。



### 2026年度委員長

教育学部 子ども発達学科 3年  
高野 絵菜さん

### 楽しさで導くオープンキャンパスのカタチ

私は赤ポロに入りたくて関東学院大学に入学を決めたくらい憧れていました。高校生の頃に見たスタッフが本当にかっこよかったことを覚えています。オープンキャンパスで大事なことは、スタッフが楽しんでいる大学生活を高校生に見せることだと思っています。暗い雰囲気だと絶対伝わっちゃうので、声かけを増やして士気を上げて、全員が前向きに動ける空気をつくりたいです。平湯祭でやったスタンプラリーみたいに、楽しく参加できる仕掛けをオープンキャンパスにも流用したいと考案中です。今はまだ“つぼみ”のアイデアがたくさんあるので、それを本番で満開にして、多くの高校生が本学を魅力的に感じて欲しいと思います。

### 2026年度副委員長

経済学部 経済学科 3年  
吉開 幹太さん

### 人とつながり、自分を広げた赤ポロ活動

私は1年の最初から赤ポロに入りました。最初は自分自身がキャンパスのことを分かっておらず、高校生を案内するのが大変でした。でも続けるうちに、初めて会う人と自然に話せるようになり、「ありがとう」と言ってもらえる瞬間がやりがいになりました。さらに、職員さんや保護者の方など大人と関わる機会も多く、その考え方や姿勢に刺激を受けることが増えました。自分の視野が広がったと感じています。人前で話す経験も積めたことで、就活の面接でも落ち着いて話せるようになりました。これからは自分の経験を後輩に伝えたりフォローしたりして、安心して挑戦できる環境をつくっていきたくです。

### 2026年度副委員長

人間共生学部 コミュニケーション学科 3年  
滝本 早智さん

### 思い出と自信が育つかけがえのない経験

私は関内キャンパス所属で、最初は八景キャンパスのことを知らないのが不安でした。高校生のときはコロナや部活でオープンキャンパスに行けなかったのですが、運営側に入ってみて「来てくれることって本当に価値がある」と実感しました。マイクで大学紹介をしたり、外で声を出して誘導したり、思い出だけでなく自信にもつながりました。来年は副委員長と広報リーダーを兼任して、Instagramでもっと大学の魅力を学生主体で発信していきたいです。私は前に出て周りを引っ張るというより、少し引いて裏方で動きたいタイプなので、不安そうな新メンバーにも目を配って支える側になりたいと思っています。

*Be yourself*

先輩の築いた成果をさらに高めたい

先輩がとても素晴らしい結果を残してくれて、期待値が上がっているのでそれを超える活動にしたいですね!



*Be yourself*

後輩のHelpサインに気づける副委員長に

後輩の「なんとなく不安」「どうすればいいかわからない」という気持ちを経験からフォローしていきます!



*Be yourself*

広報リーダーとしてSNSマスターへ

Instagramで大学の魅力を積極的に発信していきたいです。見てもらうための課題はまだあるので、試行錯誤中です。



## 法学部ES



### ESってどんな団体?

ESは法学部の公認団体で、学部・学科を盛り上げるためにイベントを企画している団体です。メンバーは100名ほどで、企画や運営を担当する執行部は十数人で活動しています。自分の学部をより盛り上げるために企画の発案から運営までを学生メインで行うやりがいのある活動と、みんなで楽しむことができる雰囲気がある団体です。地域の方を対象として開催した関キャンfes.では「赤ずきん」を題材に模擬裁判を行いました。

### 関キャンfes.で「赤ずきん」版模擬裁判を開廷

模擬裁判は、法律を少しでも身近に感じてもらうことを目的に行いました。私は司会を担当し、検察役と弁護士役のメンバーがそれぞれの立場で演技をしながら進めました。「異議あり」といったやり取りもあり、教室が一気に法廷のような雰囲気になったのが印象的です。判決は観客に委ね、結果はほぼ半々に分かれました。中には、精神鑑定書の扱いについて専門的な視点から意見を述べてくださる方もいて、とても興味深かったです。一方で告知が当日中心になってしまったことは課題です。来年は早めに広報を行い、地域の方、様々な学部の人など幅広い人に見てもらえる企画にしていきたいです。



法学部  
地域創生学科 1年  
田中 久留美さん

*Be yourself*

法律の知識を地域連携に活かしたい!

高校の探究の授業で、地域の市役所や住民の方と関わったことが今の進路につながっています。地域の課題を知るなかで、自分も役に立ちたいと思いました。大学でも法律を学びながら、地域がつながる場づくりに携わりたいと考えています。

## 学生メンター



*Be yourself*

メンタースキルを就活に存分に活かしていきます!



人間共生学部  
コミュニケーション学科 3年  
森 光希さん

*Be yourself*

リーダー経験を活かして、他のリーダーを支えています!



人間共生学部  
コミュニケーション学科 2年  
菊池 日菜子さん

*Be yourself*

メンター活動で計画的な行動ができるようになりました!



法学部  
法学科 2年  
鈴木 悠斗さん

### スーパーメンターとして後輩を見守る!

最初は友達に誘われてイベントに参加、気づいたら運営側のメンターになっていました。やるなら本気でやろうと思って、スポーツ企画ではリーダーも経験しました。今はスーパーメンターになって、企画の前に出るというより、後輩メンターの相談に乗ったり、行き詰まった時に視点を整理したり、フォローする立場もやっています。

### 不安を行動に変えて、支える側へ!

岩手から上京して友達がいなかったのが不安だったので、自分から動かなきゃと思いメンターに入りました。履修相談会で不安が軽くなった経験もあって、今度は私が支える側になりたいと思ったのも理由です。お正月企画ではリーダーを経験しましたが、全体を俯瞰する難しさを痛感しました。問題や反省点を、次の企画に活かしていきたいと思っています。

### たくさんの経験をリーダー業に活かす!

多くの人とつながれる場所が欲しくて1年からメンターに入りました。面白そうな企画にはほとんど参加して、3~4個掛け持ちしていたこともあります。今は新入生歓迎会のリーダーをやっていますが、どちらかというと前に立つより、縁の下での力持ちとして支える方が向いているタイプ。それでも挑戦だと思って、頑張っています!

# YOUは 何しに海外へ?



🇯🇵 日本 + 🇺🇸 アメリカ 2025年  
8月~12月

語学派遣留学 国際文化学部 英語文化学科 2年 清水 蒼さん



2年生から留学。留学第1号の思い出

## Q.留学するまでの経緯は?

英語を本気で伸ばしたいと思い、まずは国際センターで情報を集めました。1年生のときに参加した3日間のイングリッシュキャンプで、英語だけの環境に身を置き楽しさと悔しさを実感し、「絶対に留学したい」と気持ちが固まりました。TOEFLで430点を取得し、学内選考を経て、マーセッド・カレッジへの留学が決まりました。語学派遣留学で、私が関東学院大学からのマーセッド・カレッジ留学生第1号でした。

## Q.留学先ではどんな風に行動した?

ホームステイ先ではホストマザーとの時間を大切にしました。教会と一緒に通い、積極的に話しかけて距離を縮めました。サクラメントの教会に連れて行ってもらったのは良い思い出です。授業では日本人が多い留学生クラスだけに身を置かず、一般学生向けの美術の授業や基礎英語の授業にも自主的に参加。また、サークルを設立したり小中学生のサッカーチームで教えたり、積極的に多くの人と関わりました。

## Q.留学の経験を今後どのように活かしたい?

留学中、マーセッド・カレッジの編入資格が得られるTOEFLで合格点を取り、自分の可能性が広がったと感じました。アメリカでは皆が自分の軸を持って行動していて、その姿に刺激を受けました。帰国後は周りを気にしすぎず、目標を明確にして動こうと思っています。今後は編入や大学院、海外就職も視野に入れ、もう一度海外に挑戦したいです。

Be yourself



留学中は英語で毎日日記を書き、常にメモ帳を持ち歩いて分からない単語を記録しました。それを毎日10個調べて覚え、さらに1日1回は知らない人に話しかけることを自分に課し、日々成長を意識して行動していました。

本学では「交換留学」「派遣留学」「語学派遣留学」「夏期・春期語学研修」の4つの制度を設けています。

日本から海外へ留学、海外から日本へ留学した学生2名に留学の理由や魅力を教えてもらいました。みなさんも興味があれば国際センターに気軽に相談してください!

🇨🇳 中国 + 🇯🇵 日本 2024年4月~  
2026年3月

私費留学 国際文化学部 比較文化学科 4年 王 叶語さん



大学の温かい支援が心強かった

## Q.留学するまでの経緯は?

中国では常州大学に在籍していますが、ダブルディグリー制度を利用したいと思い、理系の学部から日本語学部へ転部して留学を志望しました。先生と面接、そして志望書を提出して承諾をいただき、約1年半日本語を集中的に勉強してJLPTはN1まで取得しました。関東学院大学は横浜・都内へも出やすく、景色がきれいでも人多すぎず、落ち着いて学べる環境だと感じています。

## Q.関東学院大学で印象に残ったことは?

学部生として入学したため、留学生向けではなく日本人学生と同じ授業を受けました。先生の日本語は想像以上に速く、これまでの勉強とは違う難しさが、専門用語や外来語にも戸惑いました。それでも翻訳アプリで音声で文字にして復習を重ね、少しずつ慣れていきました。授業以外でも交流パーティーや歌舞伎鑑賞などのイベントに参加でき、大学の温かい支援がとても心強かったです。

## Q.留学の経験を今後どのように活かしたい?

日本のインフラ通信系の会社に就職し、各地の施工現場で進行管理や予算管理を担当する予定です。まずは日本でしっかり経験を積み、将来もし永住権を取得できたら、その先の人生プランを改めて考えたいと思っています。条件が整えば大学院進学にも挑戦したいですし、中国にはない部活動文化にも憧れがあるので、社会人になったら新しいことを始めたいです。

Be yourself



昔から日本のアニメが好きで、日本文化に自然と親しんできました。その影響もあり、日本人の落ち着いた人間性や距離感が自分に合っていると感じ、日本での生活も違和感はありませんでした。「好き」が今こここまでつながったことが嬉しいです。



## RA(レジデンスアシスタント)とは?

寮生が快適かつ充実した生活を送れるように、寮生や寮全体のサポートを行います。規則正しい寮生活のために寮生全員がルールを守るよう務めるほか、寮内イベントの企画・運営や寮全体のルールづくりに携わります。

## RA×留学生 クロストーク

# CROSS TALK

**鳥羽:**最初にちゃんと話したのは9月くらいだったよね。YCUのRAに紹介していただいたのがきっかけでした。私はもともと寮生活に憧れがあって入寮したのですが、せっかくなら誰かの役に立てることもしたいと思い、RAに応募しました。普段は数学や物理を学んでいるので、留学生と関わる機会がほとんどなくて、それも大きな理由でした。

**愛:**紹介してもらってからよく話すようになったよね。私は8月から寮に住んでいます。最初は日本語が少し不安でしたけど、日本にいるから日本語を話さなきゃと思って、自分から声をかけるようにしました。友達の部屋にもよく遊びに行きます。

**鳥羽:**RAの活動では、イベントの企画もしています。12月にはクリスマスイベントを行って、学生生活課の方にも連携しながら準備しました。みんなが楽しんでくれる様子を見ると、本当にやってよかったと感じます。今後は4年生とも交流できる機会をつくりたいと思っています。就職活動を終えた先輩方のお話を聞ける場があったら、先輩も参考になると思います。

**愛:**クリスマスイベント、楽しかったよ。寮の部屋はコンパクトだけど、共有スペースが広いから自然に人が集まるよね。一人暮らしは初めてでしたが、いつも誰かがいて安心できました。

**鳥羽:**防犯面もしっかりしているので、親御さんにも安心していただける環境だと思います。私自身、群馬出身で実家を離れての生活ですが、寮だからこそ人とのつながりを感じられています。RAを通して、自分から話しかける力も身につきました。

**愛:**先生方もとても優しく、分からない言葉は丁寧に教えてくれます。キャンパスも落ち着いた雰囲気、安心して勉強できます。母が昔、日本に奨学金で来たことがあって、その影響で私も日本語を学びました。日本に来るのは6回目です。

**鳥羽:**日本各地の旅行を楽しんでたよね。北海道でスノーボードもしたって聞いて驚きました。日本を楽しみながら勉強している姿が素敵だと思います。

**愛:**もうすぐ帰国ですが、もっと長くいたい。将来は大学院でまた戻ってきたいと思っています。

**鳥羽:**そのときは、またイベントを企画して楽しもうね!

RAの仕事を通じて学校全体へつながりを広げたい。

理工学部理工学科2年 鳥羽未徠さん

RA



Be yourself

RAの仕事は留学生支援だけでなく、寮全体の生活サポートやイベント企画も含まれます。現在は寮生中心ですが、今後は他のRAと協力しながら、寮外の学生も参加できる交流を広げ、学校全体へつながりを広げたいと考えています。

RAの皆さんが生活をサポートしてくれるので安心!

インドネシア出身 エアシャナフアレッタアイチさん (ニックネーム愛さん)

留学生



Be yourself

寮生活では日本人と日常的に関わるため、日本の文化や慣習を自然に学び、身につけることができました。異国の環境を受け入れ、自分から積極的に飛び込むことで会話も広がり、授業もより楽しく感じるようになりました。また日本に来ます!

## 国際センターよりメッセージ // 留学前から万全のサポート体制で応援します! //

協定校と連携を取りながらプログラムを進めていくので、海外経験がない学生でも安心して参加できます。

渡航前にオリエンテーションや留学準備講座を実施。留学先大学への手続き、ビザ取得、航空券手配、海外安全管理アシスタンスサービス及び海外旅行保険の加入等のサポートや注意事項等の情報提供を行います。

それぞれの目的に合わせて相談に乗ることができますので、留学に少しでも興味がある方はぜひ国際センターまでご相談ください。

### ●長期留学

留学期間(1 Semester / 2 Semester)も本学の在学期間としてみなされ、留学先で修得した単位は本学で単位認定されるため、原則4年間で卒業することが可能です。

### ●短期語学研修

本学の夏期・春期休業期間を利用し、海外の大学で語学を学びながら異文化体験をするプログラムです。各学部の規程に基づき「海外語学演習」科目として2単位が付与されます。





八景  
キャンパス

## わたしたちの 第76回 平潟祭 HIRAKATA FESTIVAL 2025

2025年11月1日、2日と2日間にわたり、平潟祭が開催されました。  
開催の様子とともに実行委員の方2名にインタビューしました。

実行  
委員会

## コロナ禍を経験した私たちがつくる自由溢れる祭典 テーマは「自由闊達」

2025年の平潟祭のテーマは「自由闊達」。コロナ禍で制約の多かった中学・高校生活を送った経験から自由になった今だからこそ、型にとらわれず、皆が自由な発想で表現する場をつくりたいという思いがこのテーマには込められています。約150名の実行委員たちは学生主体の運営に力を注ぎ、模擬店の数を昨年の約1.8倍に拡大し、模擬店での支払いに初めて電子決済「d払い」を導入するという新しい試みにも挑戦しました。開催当日は大きな混乱もなく進行し、芸能人が来場するイベントなども行われた2日目は大いに盛り上がりを見せました。学生主体で「自由」と「責任」を体感しながら創り上げた平潟祭は、きっと来場者の心にも残る2日間となったことでしょう。

「d払いを導入！」



### 平潟祭はズバリ自分の「青春」そのもの！

**Q.思い出に残っていることは？**  
2日目は所用でほとんど不在でしたが、副委員長を中心に皆が主体的に動いてくれました。「自分がまとめなければ」という重圧を、うれしい形で裏切ってくれ、本当に心強い仲間にも恵まれたと実感しました。来場者の笑顔や「楽しい」の声に触れ、一年間の努力が報われた思いです。

**Q.あなたにとって平潟祭とは？**  
中高時代のコロナ禍で失われた時間を取り戻す場でした。制限なく自分の「やってみたい」を表現し、全力で取り組めたこの経験は、まさに青春だったと思います。



教育学部 子ども発達学科 3年  
第76回平潟祭実行委員長  
上村 慧さん

### 大変なことも多いけど、誰もが輝けるのが平潟祭

**Q.思い出に残っていることは？**  
docomoさんに協賛いただき、出店で使える「d払い」導入を担当しました。先方との打ち合わせも学生主体で行い、これまでにない挑戦でした。それぞれ役割は違いますが、ばらばらに見えても同じ目標へ進む一体感を実感。ここでしか得られない貴重な経験でした。

**Q.来年はどんな平潟祭にしたいですか？**  
自分らしさを出しつつ、これまでの良さも受け継ぎながら、より良い平潟祭をつくっていきたくです。上村さんのように明るく、委員全体の雰囲気を活気のあるものにしていきます。



経済学部 経済学科 2年  
第77回平潟祭実行委員長  
大竹 航樹さん



関内  
キャンパス

## 関キャンfes.2025 × KAN-KAN Park

2025年11月2日、3日の2日間にわたり、関キャンfes.が開催されました。  
衣類回収ボックスの設置やブースを出展した法学部鈕持ゼミの皆さんにお話をお聞きました。

横浜市と本学が  
脱炭素社会に  
向けて取り組む  
連携活動ロゴ



### 鈕持ゼミの衣類回収ボックス活動とは？

鈕持ゼミは関キャンfes.で、横浜市やCircular Yokohamaを運営する株式会社ハーチ、リサイクル企業のナカノ株式会社と連携し、学内に衣類回収ボックスを設置しました。衣類がごみとして処分されている現状を受け、リサイクルの周知を目的に取り組みました。ポスターやボックスのデザイン、アンケートに加え、ガチャガチャでステッカーやリサイクル手紙がもらえる企画を実施し、楽しみながら関心をもってもらえる工夫もしました。集まった衣類はGREEN×EXPO2027で再利用される予定です。

### 行政の現実と社会の課題を実感できた学び

私は将来、市役所で働きたいと考えているので、今回のように横浜市と連携した活動に参加できたことは、とても貴重な経験でした。これまで行政の仕組みを深く知る機会はありませんでしたが、実際に関わることで現状や課題を身近に感じることができました。また、回収した衣類を綿100%など素材ごとに仕分けする作業も行い、同じ服でも素材によって再利用の方法が違うことを学びました。古着が海外に輸出されたり、軍手や雑巾に生まれ変わったりする流れを知り、リサイクルの奥深さを実感しました。



法学部 地域創生学科  
地域デザインコース 3年  
伊東 勝輝さん

*Be yourself* 将来のヒントをダイレクトに得られ、  
動くイメージが広がりました！

### 「環境」と「法律」の両方を体験できるゼミ活動

横浜市では衣類回収の取り組みがもともとありますが、まだ十分に知られていないと感じました。だからこそ今回の関キャンfes.では、自分たちで回収ボックスを設置し、リサイクルの仕組みを直接伝える啓発活動を行いました。実際にやってみて、「まずは知ってもらうこと」が大事だと実感しました。また、回収後に古着屋を開く案も出しましたが、法律の問題で実現できませんでした。来年はそうした点も踏まえながら、今回の活動をさらに発展させる方法を考えていきたいです。



法学部 地域創生学科  
地域安全コース 3年  
澤柳 駿さん

*Be yourself* 運営する立場から、できることや  
課題点をクリアに感じられました！

### 消費者側の気持ちにも気づけた衣類回収

正直に言うと、今回の活動でひとつ心残りがあります。それは自分自身が古着を提供できなかったことです。自分の服が知らないところで見られるかもしれないと思うと、少し恥ずかしさがありました。でも活動を通して、この取り組みが環境にも社会にも意味のあることだと実感しました。アンケートでは、服を燃えるゴミとして捨てている人が多い現状も見えてきましたし、私自身もゼミに入らなければ回収ボックスの存在を知らなかったと思います。古着に関するあらゆる課題、現状を知れたことは大きな学びでした。



法学部 地域創生学科  
地域安全コース 3年  
中村 心優さん

*Be yourself* 「実現するところまで考える力」が  
身につきました！

### 「挑戦する」ことが不安から楽しみに変わった

もともと人と話すことがあまり得意ではなく、来場者の方に声をかけるのはとても緊張しました。最初は「ちゃんとできるかな」と思っていたのですが、実際にやってみると少しずつ慣れ、自然に声をかけられるようになりました。挑戦してみないと分からないことがあると実感しましたし、一歩踏み出したことで自分に少し自信がついたように思います。普段のゼミ活動でも、最初は戸惑うことがあっても、時間をかけるうちに話し合いがどんどん楽しくなっています。慣れないことも続けることで力になると感じました。



法学部 法学科  
行政コース 3年  
丸山 望有さん

*Be yourself* 「できるか不安」から「やってみよう！」  
という意識に変わりました！

突撃取材だから、  
ホンネのリアルスナップ!

# KGU Real Snap 2025

「①2025年で頑張ったこと」  
「②2026年で頑張りたいこと」を聞いてみました。

**有本 真昼さん**  
経済学部 経済学科 2年

① アルバイト ② 服を作る

**岩崎 楓さん**  
社会学部 現代社会学科 2年

① 筋トレ ② 減量

**鈴木 伊織さん**  
建築・環境学部 建築・環境学科 2年

① アルバイト ② 就活

**廣瀬 あおいさん**  
経済学部 経済学科 1年

① アルバイト ② 勉強

**黒澤 愛生さん**  
経済学部 経済学科 1年

① 勉強 ② 授業

**仲野 伊織さん**  
経済学部 経済学科 1年

① アルバイト ② サークル活動

**柳川 優斗さん**  
経済学部 経済学科 1年

① 大勢に合わせる ② 良い成績をとる

**菊地 咲葉さん**  
建築・環境学部 建築・環境学科 2年

① 恋愛 ② 恋愛

**小林 凛太さん**  
理工学部 理工学科 2年

① 部活動 ② 部活動

**阪上 日和さん**  
建築・環境学部 建築・環境学科 2年

① 課題・勉強・アルバイト ② 就活

**羽賀 穂音さん**  
国際文化学部 比較文化学科 1年

① 勉強!! ② カメラを頑張りたい

**内海 優成さん**  
国際文化学部 比較文化学科 1年

① 韓国語 ② ダンス

**澤田 健さん**  
理工学部 理工学科 4年

① アルバイト ② 仕事を頑張ります

**岩邊 雷祥さん**  
法学部 地域創生学科 1年

① 英検1級 ② 英検1級

**河田 愛加さん**  
国際文化学部 英語文化学科 1年

① 人生 ② 成績up!!

**須貝 祐太郎さん**  
法学部 地域創生学科 1年

① 単位 ② TOEIC

**野村 侑花さん**  
社会学部 現代社会学科 2年

① アルバイト ② 赤ポロアタッシュ

**藤原 実優さん**  
社会学部 現代社会学科 2年

① アルバイトと勉強の両立 ② アルバイトと勉強の両立

**佐藤 志一さん**  
国際文化学部 英語文化学科 1年

① バンド ② 勉強

**平山 慶多さん**  
経済学部 経済学科 2年

① アルバイト ② 勉強

**佐藤 健汰さん**  
理工学部 理工学科 3年

① 部活 ② スポーツ

**小野崎 葉琉さん**  
経済学部 経済学科 1年

① 大学に馴染もうとした ② 親孝行!!

**谷島 由紀乃さん**  
国際文化学部 英語文化学科 1年

① 人生 ② 留学

**荻野 楓翔さん**  
教育学部 こども発達学科 1年

① 勉強 ② バンド

**大山 莉奈さん**  
看護学部 看護学科 4年

① 就活・実習 ② 国試

**片岡 奎太さん**  
社会学部 現代社会学科 2年

① アルバイト ② 勉強

**黒田 凌空さん**  
経済学部 経済学科 1年

① 出席 ② しつかり寝る!

**栃木 惺さん**  
経済学部 経済学科 2年

① アルバイト ② 語学

**笠原 大地さん**  
理工学部 理工学科 1年

① 人生と恋愛 ② 趣味

**松本 桃香さん**  
国際文化学部 英語文化学科 1年

① アルバイト! ② 早起き!

**石渡 大和さん**  
法学部 法学科 1年

① 教育所 ② 教育所

**須貝 祐太郎さん**  
法学部 地域創生学科 1年

① 単位 ② TOEIC

**大越 亮摩さん**  
理工学部 理工学科 1年

① 人生 ② 出席

# チャレンジ奨学生

人間共生学部  
共生デザイン学科  
日高ゼミ 空き家ふれんず

## 空き家ふれんずとは？

日高ゼミの有志で始めた「空き家ふれんず」は、追浜エリアの空き家2拠点を学生の手で改修し、地域に開いた場へ育てる活動です。「レトロ鷹取」は民泊運営を見据えて整備し、「追浜の間」はシェアキッチンやレンタルスペース、カフェ展開も視野に再始動。改修に加え、イベントで地域の声を集め、次の企画へつなげています。



### 「好き」から行動へ。後輩たちにもつなげたい改修の魅力！

私はもともと、空き家改修に興味があってこの大学に入りました。でも、活動が止まっている時期もあり、「自分たちで動かそう」と思ったのが始まりです。気づいたら周りに声をかける立場になっていて、自然とリーダーのような役割になっていました。材料の発注は本当に大変で、サイズや数、納期まで全部調べて確認して、慣れていない分すごく時間がかかりました。私は考えすぎてしまう性格で、不安になることも多いです。でも、その度にみんなに相談して、「大丈夫だよ」と背中を押してもらってきました。改修班以外にもカフェ班など他のチームもいるので一緒に協力して盛り上げていきたいです。

人間共生学部 共生デザイン学科 3年 田中 初芽さん

## 【ウッドデッキ】

製作中...



完成！



おしゃれな色で塗装！



素材は大学で加工！

## メンバー大募集中！

空き家を自分たちの手で生まれ変わらせるワクワク、あなたも一緒に体験しませんか？新入生も他学部の学生も大歓迎。建築の知識がなくても大丈夫です。少しでも興味がある方はぜひお声がけください！



### 気軽な気持ちから本気に。充実したゼミ活動！

私は大学のパンフレットを見たとき、共生デザイン学科が「1番楽しそうだな」という気持ちで入学しました。なかでも空間インテリアデザインの授業がすごく楽しくて、自分で設計して模型を作る時間が好きになりました。その担当が日高先生だったこともあり、「もっと学びたい」と思って先生のゼミを選びました。洗面台づくりではタイル貼りを担当し、熊谷さんと一緒に何度も挑戦しました。失敗してやり直すこともありましたが、同じ班の田中さんがいつも声をかけてくれて、とても頼りになる存在でした。完成した時のうれしさは忘れられません。

人間共生学部 共生デザイン学科 3年 畠山 美憂さん

### 力仕事でチームに貢献、実行力の要となる！

最初はカフェがやりたいけどゼミに入りました。でも実際に活動を見て、空き家改修の方が形に残るし、将来にもつながりそうだと思ってこっちを選びました。発注や細かい手続きは女子に任せて、その分、自分たち男子は切る、運ぶ、測るといった力仕事を頑張りました。木材を運んだり、何度も採寸し直したり、現場と学校を往復するのは大変でしたが、「動くこと」でチームに貢献できたと思っています。日高先生は普段あまり褒めないのですが、褒めてくれたときは本当に嬉しいです。洗面台のタイルの間に入れた目地材の色を「いいね」と言ってくれたことはとても印象に残っています。

人間共生学部 共生デザイン学科 3年 熊谷 風汰さん



### 悔しい思いが完成に導いた、ウッドデッキ製作！

私の祖父が建築関係の仕事をしていて、その影響でインテリアや空間づくりに興味を持ちました。日高ゼミを選んだのは、実際に改修に関われるからです。ゼミ室には先輩たちが作った椅子や家具が並び、くつろげる空間になっていて、「私もこんな作品を残したい」と思いました。ウッドデッキ製作では、先生からやり直しを言われて全部ばらすことに。正直すごく悔しかったです。でもその分「もっと良くしたい」と火がつかしました。3・4年は授業もほとんど取り終えて、暇になると思っていたのに、実際は改修で大忙し。それが学生生活を充実させてくれて嬉しいです。

人間共生学部 共生デザイン学科 3年 松本 奈々さん



### 自分の好きな活動ができる。アクティブで自由な日高ゼミ！

一番印象に残っているのは、完成した後の時間です。達成感と疲労でその場に残り、みんなで語り合った時間は、今でも大切な思い出です。洗面所のタイル貼りで、少しのミスで7割ほどが剥がれ落ち、絶望しました。今後はチャレンジ奨学金の支援を活かし、レトロ鷹取をAirbnb(宿泊サービス)に出せるよう運営を学びたいです。空間演出や家具、アメニティの工夫も深めていきたいと思っています。本学は多くの出会いがあり、先輩後輩の壁もありません。ゼミに入った時に先輩に「好きなことをしていいよ」と言われました。好きなことに挑戦できる、自由でアクティブな環境が魅力です。

人間共生学部 共生デザイン学科 3年 土井 真叶さん



### 日高ゼミだから、関東学院大学だから、没頭できる！

私は松本さんと一緒に、レトロ鷹取の入口前のウッドデッキ製作を担当しました。予算が足りないと分かった時、「追浜の間」にあった廃材を見つけて、これ使えないかなと松本さんに相談したんです。するとすぐ「やってみよう」と動いてくれて、そこから一気に話が進みました。素材や作り方を調べ、先生とも何度も話し合いながら形にできたのは大きな経験です。共生デザイン学科は、設計だけでなくグラフィックや3DCG、カメラなど幅広い授業があります。いろいろな領域からデザインを学べるからこそ、自分なりの表現につなげられるのが魅力だと思っています。

人間共生学部 共生デザイン学科 3年 丸古 葵衣さん



# 学長賞&功労賞 発表!

学長賞は、学術賞(学業成績優秀者及び研究活動優秀者・団体)と  
精勤賞(課外活動優秀者・団体及び社会活動功労者・団体)に分かれています。

学術賞の「学業成績優秀者」は人物・学業ともに優秀と認められた学生に対して贈られます。

また、学術賞の「研究活動優秀者・団体」と精勤賞は、研究活動や課外活動、社会活動(ボランティアなど)において、  
本学の名誉を高揚したと認められる学生と団体が対象となります。

## 学長賞

### 学術賞

#### 学業成績優秀者表彰

国際文化学部 英語文化学科	酒井 樹	理工学部 理工学科機械学系	松永 大牙
国際文化学部 比較文化学科	渡邊 翔	理工学部 理工学科電気学系	小林 悠希
社会学部 現代社会学科	齊藤 加惟	理工学部 理工学科情報学系	榛地 玄暉
経済学部 経済学科	齋藤 未来	理工学部 理工学科土木学系	飯島 健太
経営学部 経営学科	大口 真穂	建築・環境学部 建築・環境学科	鈴木 竣人
法学部 法学科	川口 拓海	人間共生学部 コミュニケーション学科	平塚 弥月
法学部 地域創生学科	島野 紗帆	人間共生学部 共生デザイン学科	西川 まどか
理工学部 理工学科生命学系	廣井 彬乃	栄養学部 管理栄養学科	佐藤 美温
理工学部 理工学科数物学系	佐藤 春菜	教育学部 こども発達学科	宮下 京子
理工学部 理工学科化学学系	鳥井 勇輝	看護学部 看護学科	近 舞優子

### 精勤賞

建築・環境学部 建築・環境学科 4年 川村 彩良  
●第37回『神奈川県7大学1専門学校卒業設計コンクール』  
(主催:日本建築家協会関東甲信越支部神奈川県会(JIA神奈川県))における金賞「最優秀賞」受賞

### 個人表彰

#### 剣道部

国際文化学部 比較文化学科 4年 又吉 可奈子  
●第57回全日本基督教関係大学剣道大会 女子個人戦 優勝

経済学部 経済学科 4年 内藤 瑞貴

●第73回全日本学生剣道選手権大会 第5位(敢闘賞)

## 功労賞

### 体育系課外活動優秀団体表彰

#### 剣道部 男子

- 第70回秋季神奈川県学生剣道選手権大会 優勝
- 第59回全日本基督教関係大学剣道大会 準優勝

#### 空手道部 男子

- 第29回神奈川県大学空手道選手権大会 男子団体組手の部 優勝

#### バスケットボール部 女子

- 第75回関東大学女子バスケットボールリーグ戦 2部Bブロック 優勝

### 研究活動優秀団体表彰

#### 奈良堂史ゼミナール 柳原チーム

- 第21回神奈川産学チャレンジプログラム 最優秀賞受賞

### 団体表彰

### 体育系課外活動優秀者表彰

#### ラグビー部

経済学部 経済学科 3年 丸尾 瞬  
●2025年度関東大学リーグ戦1部 ベスト15選出

経済学部 経済学科 2年 星 遥大  
●2025年度関東大学リーグ戦1部 ベスト15選出

#### 剣道部

理工学部 理工学科 3年 梅田 桜輔  
●第59回全日本基督教関係大学剣道大会 男子個人戦 準優勝

人間共生学部 コミュニケーション学科 1年 東海林 妃那子

- 第70回春季神奈川県学生剣道選手権大会 女子個人戦 優勝

#### バスケットボール部

社会学部 現代社会学科 2年 加藤 志野  
●東京2025デフリンピック(女子バスケットボール) 優勝

人間共生学部 共生デザイン学科 2年 加藤 志希  
●東京2025デフリンピック(女子バスケットボール) 優勝

### 文化系課外活動優秀者表彰

文学研究科 比較日本文化専攻 3年 高柳 知代美

- 第37回舟橋聖一顕彰青年文学賞 受賞

### 個人表彰

#### 空手道部

人間共生学部 共生デザイン学科 2年 平松 寛太  
●第29回神奈川県大学空手道選手権大会 男子個人組手有段の部 優勝

法学部 法学科 1年 大森 珠葵

- 第29回神奈川県大学空手道選手権大会 女子個人組手有段の部 優勝

教育学部 こども発達学科 1年 中澤 ひなた

- 第29回神奈川県大学空手道選手権大会 女子形の部 優勝

#### カヌー部

教育学部 こども発達学科 4年 伊藤 勇樹  
●第15回全日本学生カヌースプリント新人選手権大会 JK-1 500m 優勝

# 地域貢献・国際ボランティア

意外なところでもKGU生が大活躍!

学生の皆さんが取り組んでいる地域貢献・国際ボランティアの活動をピックアップ!



## 剣道部

【ロサンゼルス剣道国際交流会】

教育学部  
こども発達学科 3年  
江澤 秀悟 さん

### アメリカ研修を終えて

2月15日、私たちは剣道アメリカ代表の選手の方々と合同稽古を行いました。海外の代表選手と実際に剣を交える機会はめったにないため、稽古前から大きな緊張と期待がありました。

実際に向き合うと、その気迫や集中力の高さに圧倒されました。一つ一つの打突には迷いがなく、踏み込みの強さや間合いの詰め方、攻め続ける姿勢からは、日頃の厳しい鍛錬が伝わってきました。普段の稽古では味わえない独特の緊張感があり、自分たちの実力や課題を改めて見つめ直す機会となりました。同時に、「もっと強くなりたい」という思いも一層強くなりました。

また、稽古後には交流の時間もありました。言葉や文化は違っても、礼を大切に、真剣に剣道と向き合う姿勢は同じであることを実感しました。剣道を通して自然と心が通じ合う瞬間があり、剣道が世界へ広がっていることを肌で感じる事ができました。

このように剣道部では、日々の稽古だけでなく、国際的な交流を通して技術面・精神面ともに成長することができます。



# 安否確認システム・学生生活課公式 LINE・迷惑行為・SNS・違法薬物・マルチ商法・飲酒・防災

## 安否確認システム スマホアプリ登録方法

本学では、地震等の災害時において、ANPICを用いて、学生・教職員の安否状況を迅速に把握します。

また、皆様の安否情報により、被害状況を把握し早期の対応を検討できます。そのため、皆様の安否報告が必要となります。

地震「全国で震度5強以上」が発生した際は、システムから自動的に安否確認のメールが送信されます。また、その他本学の判断のもと、メールを送信する場合があります。緊急時において、確実に安否確認メールが受信できるように、必ず手順に従い設定を行ってください。

### STEP①.初期登録設定

下記URLまたはQRコードより、関東学院大学ANPIC初期登録サイトにアクセスしてください。

<アクセス後の画面> <関東学院大学 ANPIC初期登録サイトURL>  
https://anpic-v-kanto-gakuin.jecc.jp/kanto-gakuin/regist

①ログインIDに「学籍番号」を入力し、「次へ」をタップ。  
②KGUメールアドレスに、システムからメールが届くので、メールに記載されたURLにアクセスし、パスワード設定、新規メールアドレス登録を進めてください。  
③パスワードの設定を行うと、再度KGUメールに確認内容と、本登録用のURLが送られますので、URLにアクセスしたら、本登録完了となります。

### STEP②.専用アプリのダウンロード・ログイン

「anpic」「アンピック」「あんびっく」のいずれかで検索して専用アプリをインストール、ログインしてください。

<初回起動後の画面> <関東学院大学 ANPICサイトURL>  
https://anpic-v-kanto-gakuin.jecc.jp/kanto-gakuin

ANPIC URL : 関東学院大学 ANPIC 登録サイトの URL を入力するか、  
○をタップし、QRコードの読み込み  
ログインID : 学籍番号  
パスワード : ステップ1で設定したパスワード  
ログインできれば完了となります。

STEP②以降の詳細マニュアルは、別紙「ANPIC利用マニュアル(詳細版)」をご覧ください。

## 迷惑行為 社会の一員として守るべき最低限のルール

自転車によるスピードの出しすぎや無灯火運転、歩行者の邪魔になる横隊歩行の苦情が近隣から寄せられています。また、車通学は禁止にも関わらず、近隣商業施設の駐車場に無断で長時間駐車をしている事例も報告されています。近隣住民の皆様迷惑をかけないように心掛けましょう。

## 飲酒 未成年の飲酒も、お酒の強要も絶対ダメ!

未成年者の飲酒は一歩間違えば死に至ったり、脳や肝機能の障害、依存症の危険性があります。また、成人であっても一気飲みや過度な摂取は、急性アルコール中毒による死亡リスクがあります。

本学では万が一、未成年者の飲酒が発覚した場合には退学処分も検討しています。ルールを守り、楽しいお酒との付き合い方を考えましょう。



## 学生生活課公式 LINE

学生生活課からの大切なお知らせを配信します。学生生活でお困りのこと、相談したいことがありましたら、まずはこのLINEをチェック!!

もちろんKGUポータルへ簡易アクセスできます★

LINEの「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」、「URLアクセス」で登録してください。

URL: <https://lin.ee/8QjpDg5> お問い合わせ先: 学生生活課



## 違法薬物 薬物所持・使用はあなたも家族も社会も破滅させます

薬物乱用は健康を害するだけでなく、人生そのものに深刻な影響を及ぼします。近年、大学生の間で薬物乱用が広がっており、SNSなどを通じた違法薬物の勧誘も増加しています。「一度だけなら大丈夫」という考えは危険で、薬物は依存や脳への悪影響を引き起こす可能性があります。

2023年12月に「大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律」が成立し、2024年12月12日から一部が施行されました。これにより、大麻(規定値を超える成分を含むグミやリキッドを含む)の「使用」も法律で禁止され、違反すると7年以下の懲役が科されます。また、違法薬物の「購入」「所持」「譲渡」も厳しく罰せられます。

違法薬物に関与すると、刑事罰に加え、大学から退学などの厳しい処分を受ける可能性もあります。軽い気持ちで手を出すと、将来を棒に振ることになりかねません。問題の重要性を理解し、違法薬物には絶対に関与しないようにしましょう。

## SNS 安易な気持ちや間違った認識の投稿が人生を台無しに

近年ではSNSを活用してコミュニケーションを図るなど、生活に欠かせないツールとなっています。しかし、軽率な発言や行動をアップして、相手を傷つけたり、情報が悪用されて自身が犯罪者になってしまうケースもあります。トラブルに巻き込まれた場合は学生生活課、学生支援室にご相談ください。



## マルチ商法 うまい話に騙され負債を抱えることも

「儲け話がある」「良い商品がある」などをネタにしたマルチ商法が本学でも発生しています。近年目立つトラブルは、高額な学習教材を購入させる商法。「高額だけど結果として儲かるから」と学生ローンを複数組み、借金だけが残るパターンです。トラブルに巻き込まれたら、迷わず学生生活課または消費生活センターにご相談ください。

### 最近相談が寄せられた事例

- 携帯電話の名義貸し
- 日経先物取引売買学習教材の購入について
- ネットビジネスに関するセミナーへの参加
- 株式投資に関するセミナーへの参加など

## 防災 万が一に備えた防災活動で地域にも貢献

2014年に本学と横須賀市追浜地域運営協議会は、地域防災に関する協定を締結しました。追浜地域は学生寮や剣道部合宿所があり、入居する学生が大規模災害発生時に地域住民の救護活動や被災情報の伝達活動、避難所運営などで支援協力を行います。また、金沢消防署・消防団と本学のラグビー部・硬式野球部・陸上競技部は「消防応援に関する覚書」を2006年より締結しています。災害が発生した際に消防・救護協力ができるよう、毎年、初期消火・救急救命研修を実施しています。

まずは自分の身を守ることが大切ですが、誰かを助けなければいけない場面に遭遇した場合は学んだことを行動に移しましょう。